

介護施設で看取る、最期への過程すべてが看取り

[あとで読む](#)

【尊厳ある介護(48)】医療スタッフなし、介護者だけの看取りとは

公開日：2018/06/18 (ソサエティ)

里村 佳子 (社会福祉法人呉ハレルヤ会員
ベタニアホーム統括施設長)

団塊の世代が75歳以上になる2025年には、年間160万人が亡くなる多死社会が到来すると言われています。

それにむけて看取りの場の確保が深刻な問題となっており、介護施設もその役割を果たすように期待されています。

私たちのグループホームも入居者は高齢となって重度化し、入居者や家族からこの施設で最後を迎えたいと声上がるようになりました。

その思いに添いたいと、およそ4年前から看取り介護について検討を始めました。

当時は、管理者やスタッフも医師や看護師が常時いない施設で看取することに不安と抵抗が強くありました。

けれども、まずは講演会や研修会に参加して学んでみようということになったのです。

そこで、看取り介護は医師が一般に認められている医学的知見に基づき回復の見込みがないと診断された入居者に対し、身体的精神的苦痛を緩和・軽減し、人生の最後まで尊厳ある生活を支援することだと分かったのです。



CC BY-SA /The Webhamster

私たちは、看取り介護を死の瞬間だけ看ることだと誤解していたことに気付きました。生活の延長上にある自然な死の過程を支えるのだと、理解していなかったのです。

振り返ると、今まで老衰で食事ができない入居者に、何とか食べてもらおうとキザミが駄目ならミキサー食と無理を重ねていたのです。

それでも、経口摂取が難しい入居者は、介護施設では限界があるため病院にバトンタッチすることは、やむを得ないと考えていました。

しかし、昔は家で老衰の家族を看取っていたことを考えると、施設での看取りに自信が湧いてきました。

私たちは看取りに関する指針やマニュアルなどの作成に取り組み、医師、看護師、ケアマネジャー、栄養士、介護士、それぞれの役割と連携の仕方を確認しました。

協力病院の医師は定期的に施設を訪問して診療していたので、24時間連携は取れていました。なので、看取りの体制は十分に整ったのです。

すると、それを待っていたかのように介護スタッフから「入居者の岡田亜子さん(仮名 91歳)が、弱って食事を食べなくなりました」と、報告がありました。

ご家族もその変化を知って、「最後はここで看取って欲しいのです」と、おっしゃったのです。

そこで、ご本人とご家族に急変時や終末期の医療のあり方について意思確認を行いました。ご家族は、積極的な治療は希望されませんでした。食事が経口摂取できなくなっても点滴などせずに自然経過に任せるとのことでした。

その後、岡田さんはいよいよ経口摂取が困難になり、眠っている時間も長く発語も少なくなりました。それらの変化から看取り期に入ったと考えました。

管理者はご家族と一緒に医師の所見を聞きました。医師は回復の見込みはないと診断をしましたが、私たちは看取り介護の主体は家族なので、終末期の考え方が途中で変わっても良いと伝え、再度意思の確認をしました。

また、食事はミキサー食にしていたが無理に介助しないで、ゼリーや果物をジューサーにかけるなどして、好きな物を食べていただくことにしました。

ケアマネジャーは看取り介護計画書をご家族に同意していただき、希望すれば岡田さんのお部屋に泊まれるよう環境を整えました。

看護師は医師と相談して苦痛を感じるようであれば手足のマッサージをし、可能であれば入浴や清拭をしました。さらに、3時間ごとに血圧、脈拍、体温、呼吸などのバイタルチェックを行いました。

そして、いよいよその日がきました。介護スタッフがお部屋を訪問したところ、血圧と動脈血酸素飽和度が下がりエラーが続いたのです。

すぐに医師に連絡をしましたが、しばらくして岡田さんは大きく息を吸って亡くなりました。幸いなことにご家族が付き添っていたので、一緒に見送ることができました。

平成28年に初めての看取り介護を行い、これまで5人の入居者の終末期を支えてきました。

私は1人を除いた4人の入居者と最後のお別れをすることができました。

皆さん苦しむことなく穏やかな死でした。

その自然の摂理を肯定して寄り添ったご家族や私たちは、言葉では言い表せない厳粛な思いに満たされたのでした。

(注) 事例は個人が特定されないよう倫理的配慮をしています。

<この連載は原則水曜日に掲載しています>

続報リクエスト

マイリストに追加

以下の記事がお勧めです

- > [里村 佳子のバックナンバー](#)
- > [大阪で震度6 3人の死亡確認](#)
- > [ヒトラー的指導者が次々登場 ポピュリズムの荒波](#)
- > [アルゼンチン通貨危機の様相、政策金利40%に](#)
- > [私は「女尊男卑」の考え、「女性活躍」なんて当たり前です](#)

プロフィール

最近の投稿



里村 佳子(社会福祉法人呉ハレルヤ会呉ベタニアホーム統括施設長)

法政大学大学院イノベーションマネジメント (MBA) 卒業、広島国際大学臨床教授、前法政大学大学院客員教授、広島県認知症介護指導者、広島県精神医療審査会委員、呉市介護認定審査会委員。ケアハウス、デイサービス、サービス付高齢者住宅、小規模多機能ホーム、グループホーム、居宅介護事業所などの複数施設の担当理事。2017年10月に東京都杉並区の荻窪で訪問看護ステーション「ユアネーム」を開設。



[この記事を編集](#)

ソクラとは

[FAQ](#)

編集長プロフィール

[利用規約](#)

利用案内

[プライバシーポリシー](#)

著作権について

[特定商取引法に基づく表示](#)

メイキングソクラ

[お問い合わせ](#)

お知らせ一覧

[コラムニストプロフィール](#)

Copyright © News Socra, Ltd. All rights reserved